



「第4回リノベーションアイデアコンペ」開催概要公開、応募登録開始！

課題：

「萌える防災」

一般社団法人リノベーション住宅推進協議会（東京都渋谷区、会長：内山博文）は「リノベーション EXPO JAPAN 2014」の一環として、「第4回リノベーションアイデアコンペ」（以下、「本コンペ」と略）を開催いたします。

※リノベーションEXPO JAPAN 2014とは？：2010年より「『見て、聞いて、学ぶ』リノベーション」をテーマに、セミナーや講演会、リノベーション現場見学会、パーティなどを全国各地で開催するイベントです。今年で5年目を迎え更に充実した内容を、全国で9月から順次開催予定です。詳細は協議会サイトをご覧ください。

オリンピックに向け建て替えが進む「木造密集地域」に未来はあるのか？

「リノベーション」は古い建物を改修して使用する行為が発端ですが、今では、地域活性の領域など、発想の転換を伴いつつ多様な領域・視点を提供する包括的なソリューションです。

今年アイデアコンペは、上記のようなリノベーションの現状をふまえつつ、街の魅力を形作る大きな要素でもある「木造密集地域（以下、「木密」）」を対象としました。木密エリアは、震災や火災で大きな被害を被るエリアとして建て替えの重点地域に認定されています。しかし、吉祥寺のハモニカ横町のように、人が生き生きと暮らす上で、重要な拠点となっていることも否めません。

行政主導で建て替えが進む木密地域の、「良さ」は残しつつ、「防災」もカバーできるような、リノベーションの発想を持った多様なアイデアを募ります。

応募資格は、個人・グループを問わず、年齢も職種・職歴も問いません。提案内容も、建築的なアイデアはもちろん、ビジネスモデルや制度やサービス、まちづくり手法、メディアなど、ジャンルを問わず募ります。建築、デザイン、不動産、まちづくり、行政、ビジネス・・・様々な分野からの応募を期待しています。

社会デザイン研究者三浦展氏、「週末は田舎暮らし」著者馬場美織氏他、多様な審査員が多角的に評価

様々なアイデアを多角的に評価できるよう、社会デザイン研究者（カルチャースタディーズ研究所代表取締役）の三浦展氏を審査委員長に迎え、建築・不動産業界の審査員に加えて、ライフスタイルプロデューサー村上萌氏、南房総リパブリック代表理事で「週末は田舎暮らし」の著者、馬場美織氏など多様な審査員に参加いただきます。

一次審査で入選された作品は、9月～11月に全国各地で順次開催される「リノベーションEXPO JAPAN 2014」で展示された後に、11月3日（月・祝）の公開プレゼンテーションを経て、上記審査委員による最終審査を行います。（各地域の「リノベーションEXPO JAPAN 2014」展に関する詳細情報は、後日ホームページ上で公開いたします。）

開催実施概要

▶ 審査委員長： 三浦 展 社会デザイン研究者／株式会社カルチャースタディーズ研究所 代表取締役

▶ 審査委員（五十音順）：

内山 博文	リノベーション住宅推進協議会 会長／株式会社リビタ 常務取締役
嶋田 洋平	株式会社らいおん建築事務所 代表取締役
陣内 秀信	法政大学デザイン工学部建築学科教授
馬場 未織	NPO法人南房総リパブリック 代表理事
村上 萌	ライフスタイルプロデューサー／株式会社ガルテン 代表取締役
山本 俊哉	明治大学理工学部建築学科教授

▶ スケジュール： 応募登録開始 2014年5月30日（金）
作品提出締め切り 2014年9月8日（月）17:00 必着
公開審査による最終審査選考会・結果発表 2014年11月3日（月・祝）

▶ 主旨・詳細：別紙「実施概要書」もしくは、協議会サイト（<http://www.renovation.or.jp/expo2014/competition/>）をご覧ください

Q. リノベーションアイデアコンペとは？

毎年テーマを決めて、学生・社会人を問わず、リノベーションの手法に則った多様なアイデアをコンペ形式で募っています。一次審査を通過したアイデアは、全国のEXPO会場に展示をされ、最終審査選考会は公開にて行われます。業界内外の第一線で活躍する審査委員の生コメントや議論を聞ける有益な場です。

Q. 過去のアイデアコンペの実績

「第1回リノベーション学生アイデアコンペ」(2011年)

審査委員長に石井健氏(ブルースタジオ)を迎え、「あのヒーローに捧げる、日本のリノベーション住宅」をテーマに住宅取得のプロセスも含めて物語を感じさせる提案を募り、300件を超える応募登録、100件を超える提案を頂きました。(http://www.renovation.or.jp/expo2011/competition/)

「第2回リノベーションアイデアコンペ」(2012年)

審査委員長に馬場正尊氏(東北芸術工科大学准教授/オープン・エー)に「リノベーションによる、新しい住み方」をテーマにストック型社会を牽引するアイデアを募り、533件の応募登録、207件の提案を頂きました。(http://www.renovation.or.jp/expo2012/competition/)

「第3回リノベーションアイデアコンペ」(2013年)

審査委員長に竹内昌義氏(東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授/みかんぐみ共同主宰)を迎え「空家問題を解決せよ!」をテーマに、増え行く空家の解決策を建築から社会デザインへの言及まで幅広く募り、応募登録376件、163件の提案を頂きました。(http://www.renovation.or.jp/expo2013/competition/)

Q. 一般社団法人リノベーション住宅推進協議会とは？

消費者が安心して既存住宅を選べる市場をつくり、既存住宅の流通の活性化を目的に、2009年7月に発足した団体です。2014年5月29日現在、業界・業種の枠を超えた415社(正会員275社、賛助会員124社、特別会員4名9法人3自治体)が参画し、優良なリノベーションの統一規格「適合リノベーション住宅」に則った建物タイプ別の品質基準を設定、普及・浸透を推進しています。

区分所有マンションの専有部に関する品質基準を満たす「R1住宅(アールワンジュウタク)」、区分所有マンションの共用部も含む品質基準「R3住宅(アールスリージュウタク)」、戸建住宅の品質基準「R5住宅(アールファイブジュウタク)」が運用されており、適合リノベーション住宅発行件数は累計で15,176件(2014年5月30日現在)になっています。

名称：一般社団法人リノベーション住宅推進協議会 (平成21年5月20日 設立)

住所：東京都渋谷区渋谷2-12-19 会長：内山博文

※当協会の理念、沿革、会員、適合基準の詳細などは協議会サイト (<http://www.renovation.or.jp/>) をご覧下さい。



第4回リノベーションアイデアコンペ



課題

『萌える防災』

審査委員

審査委員長

三浦 展 社会デザイン研究者／株式会社カルチャースタディーズ研究所 代表取締役

審査委員（五十音順）

内山 博文 リノベーション住宅推進協議会 会長／株式会社リビタ 常務取締役

嶋田 洋平 株式会社らいおん建築事務所 代表取締役

陣内 秀信 法政大学デザイン工学部建築学科教授

馬場 未織 NPO 法人南房総リパブリック 代表理事

村上 萌 ライフスタイルプロデューサー／株式会社ガルテン 代表取締役

山本 俊哉 明治大学理工学部建築学科教授

賞金

最優秀作品賞 1作品 賞金 30万円

優秀作品賞 1作品 賞金 10万円

視点特別賞 数点 賞金 5万円

（アーキテクチャー & デザイン賞、ビジネス & コミュニケーション賞など）

入選作品に選ばれた作者（代表一名）は11月3日（月・祝）に東京で開催予定の最終選考会に招待致します。
最終選考会および講評会は上記審査委員も出席予定です。

作品提出〆切

2014.9.8（月）17時必着

コンペ公式ホームページ

<http://www.renovation.or.jp/expo2014/competition/>

主催

一般社団法人リノベーション住宅推進協議会

※裏面の応募要項もご覧下さい。

課題

『萌える防災』

燃えやすい木造密集地域を防災のために建て替えるのではない。木密に萌えてしまう僕たちは、木密をリノベーションして、かつ防災性を高めたい。それが今年のテーマである。

『それでも木密に住みたい!』という本もあるほど、木密地域には魅力がある。密集しているからこそ、路地があり、人と人がふれあいやすく、味わいがあり、界隈性がある。だから人は、木密に萌えるのだ。

しかし、たしかにそこは地震や火事の際の危険は大きい。あっという間に火の海になり、すごい熱風で火の粉が舞って、木密地域以外にまで火災を広げる危険がある。だから、2020年の東京オリンピックに向けて、木密地域はまさに標的にされている。どんどんぶっ壊してビルにしようとされている。

東京に限らない。今まで何十年の間、日本中で、密集した住宅地、商店街、歓楽街、飲み屋街、ヤミ市などが壊され、衰退し、その代わりにツルツルピカピカのビルに建て替えられた。たしかにそれで街がきれいになったり、マンションができて人口が増えたり、おしゃれな店ができたりもした。しかし、それで必ずしも街が生き生きとよみがえったとは限らないような気がする。たとえばハモニカ横丁のない吉祥寺なんて想像できないように、木密だからこそ、街の魅力を倍加している例はいくらでもある。

また、阪神淡路大震災の時、焼け野原になった木密地域にマンションを建てて住民を戻したら、以前の住民コミュニティが失われ、孤独にさいなまれて自殺する人すらたくさんいたことは周知の事実である。

さらに、これからの人口減少社会の中で、ビルに建て替えても、そこに入る人も店もオフィスも足りなかったりする。防災性を高めることと、2階建ての木造家屋を10階建てのビルにすることは、かつては同じで良かったが、これからは違うはずだ。

ただ燃えやすいというだけの理由で、どんどん壊して、ただ広場にするとか、道路を拡幅するとか、ビルにするとかでは能がなさ過ぎる。だから、住宅や商店それ自体をリノベーションするだけでなく、木密地域全体を、街路なども含めて、街全体としてリノベーションすることで、建物を燃えにくくし、防災性を高め、かつコミュニティを維持する、もしかしてもっとコミュニティを強化する、そしてコミュニティを強化することで防災性も高まる、「萌えつつ燃えない防災」「燃えないが萌える防災」、それが課題だ。

審査委員長 三浦 展

応募資格

応募者はグループ・個人を問いません。

11月3日(月・祝)に東京で開催される最終審査会の公開プレゼンテーションに参加できること。

※プレゼンテーションをしていただく入選者の交通費(※国内旅費に限る)・宿泊費は代表者一名分を支給する予定です。
※最終審査会に参加できない場合は、入選辞退とさせていただきます。

応募図書

私たちは従来型の建築設計提案を求めているわけではありません。その道の専門家に対して伝える表現手法も大事なものです。しかし、ある特定の人だけが理解できる提案だけでは、せっかくのアイデアも伝播しにくいものになってしまいます。あなたの考えている課題とそのソリューション方法が多くの方に伝わる形であれば、表現手法は自由です。

<1次選考>

A3(横使い) 1ページ(※PDF形式) 用紙表面には氏名・所属など個人情報が分かるものは記載しないようにご注意ください。

【表現の一例】

- 提案の意図を表現する説明文、ダイアグラム、図面など
- 選んだ空間、場所の基本情報…周辺環境、(建物の場合)元の用途・間取り・築年数など
- 縮尺、表現方法は自由

作品提出〆切

2014年9月8日(月) 17時必着

応募方法・その他

詳細は下記ホームページにてご確認ください。

コンペ公式ホームページ <http://www.renovation.or.jp/expo2014/competition/>